

# 富士通シーメンス・コンピュータズ 統合で変革する富士通

2009年3月30日

富士通株式会社

代表取締役社長

取締役副社長

経営執行役上席常務

野副 州旦

富田 達夫

リチャード・クリストウ

## ■ 富士通のポートフォリオにおける

### 富士通シーメンス・コンピューターズ統合

野副 州旦

## ■ 変革する富士通のIAサーバビジネス

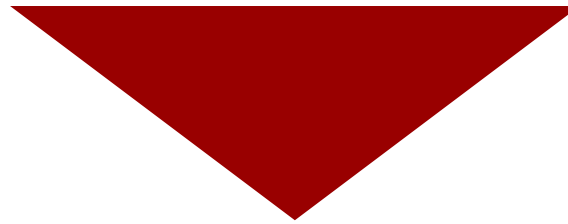
富田 達夫

## ■ 変革するグローバルビジネス

リチャード・クリストウ

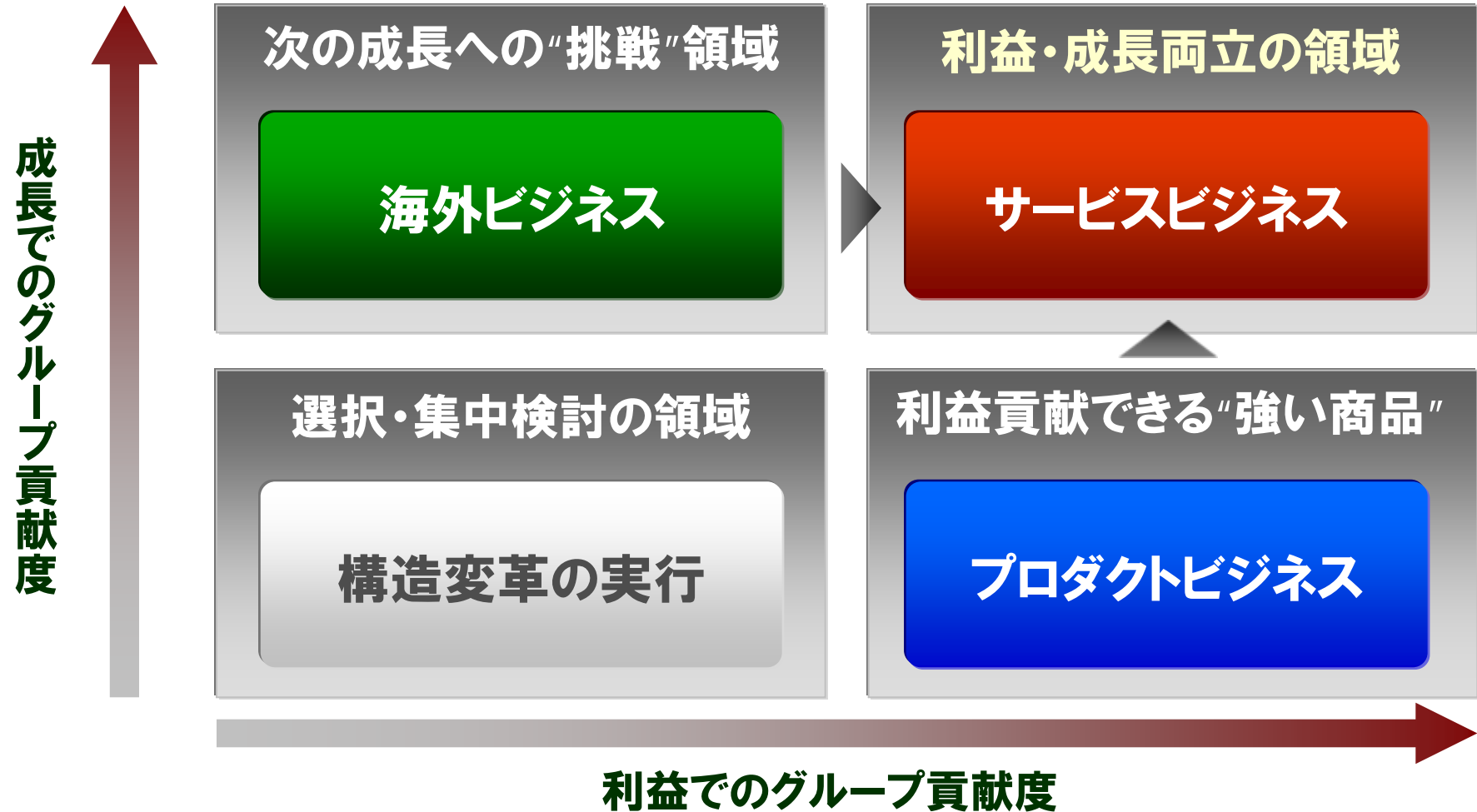


# Fujitsu Siemens Computers



# Fujitsu Technology Solutions

## 利益と成長への貢献が、事業リソース投入の判断軸



## プロダクトビジネスの拡大と海外ビジネスの収益力強化



FSC : 富士通シーメンス・コンピューターズ

# 富士通シーメンス・コンピュータズの統合は、 富士通の変革の「軸」

## グローバルグループとして共通の目標を持つ

国内販売体制の強化

サーバビジネスの再編

2年後に50万台以上、  
長期的には  
シェア10%以上  
のIAサーバ販売

パートナーシップの強化

海外拠点の見直し

FSCの構造改革

## ■ 富士通のポートフォリオにおける

富士通シーメンス・コンピューターズ統合

野副 州旦

## ■ 変革する富士通のIAサーバビジネス

富田 達夫

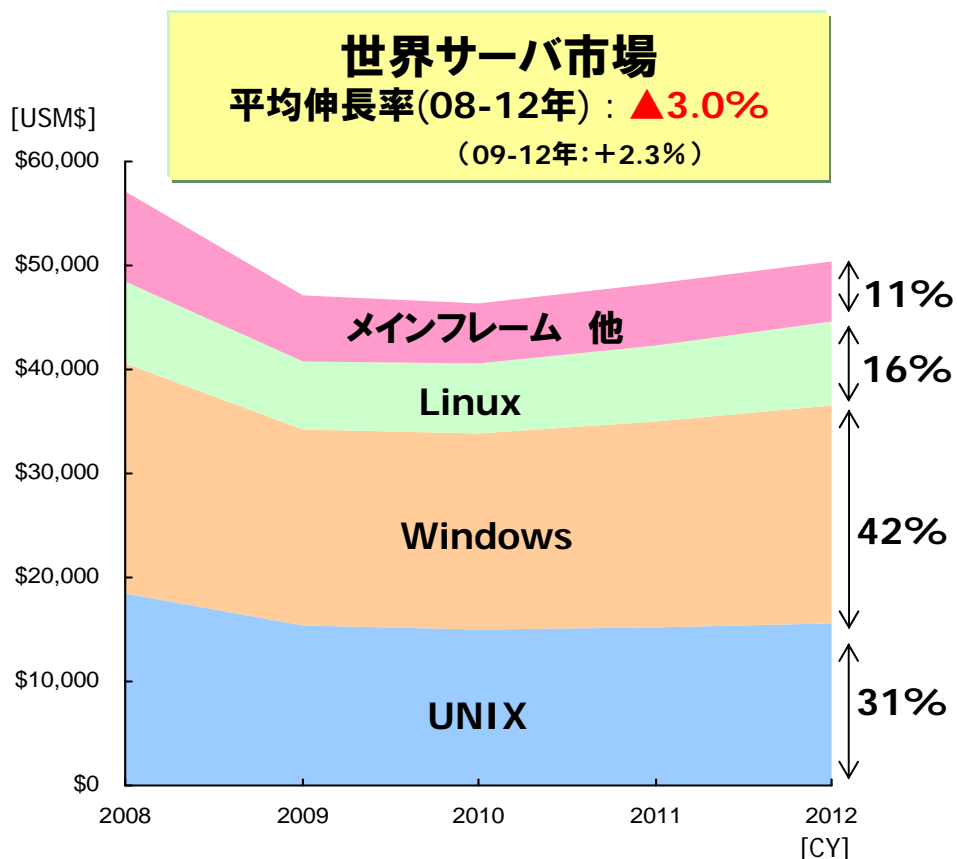
## ■ 変革するグローバルビジネス

リチャード・クリストウ

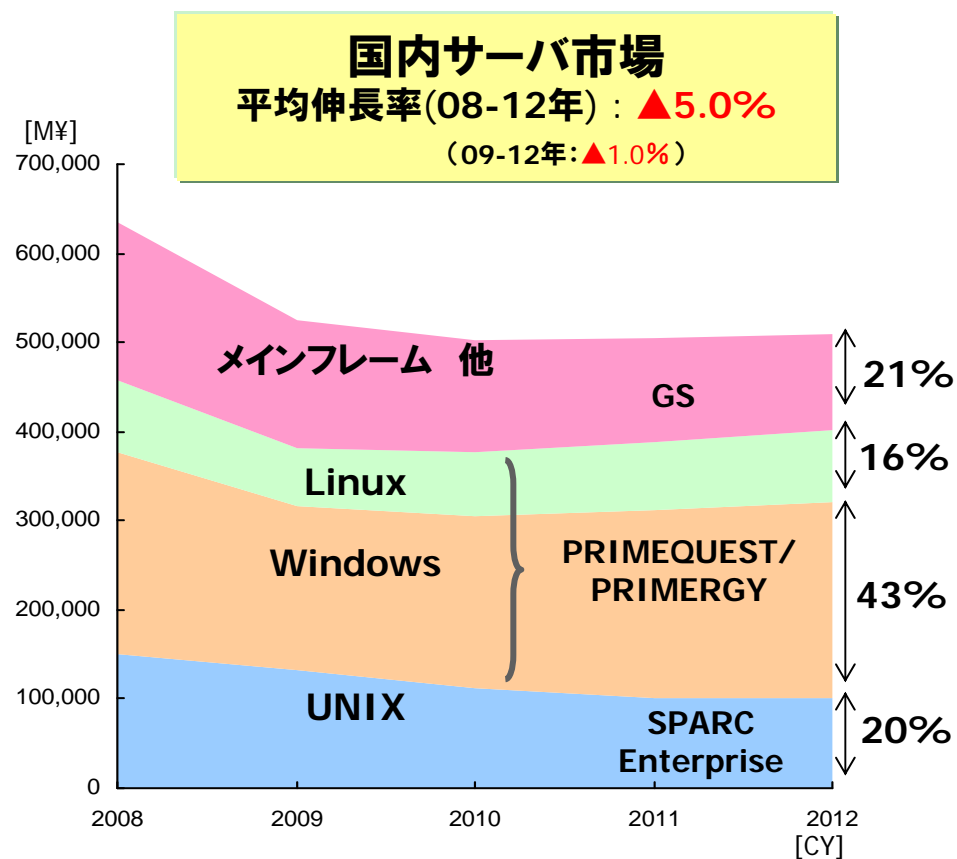
# サーバの市場動向

## ■ 富士通は各市場に適した製品を提供

### ■ メインフレーム/UNIX/Windows/Linuxに対応



出典: IDC's Worldwide Quarterly Server Forecast As of 2008 Q4









出典: IDC Japan's Japan Quarterly Server Forecast CY2008 Q4



# お客様の資産を継承する製品ラインナップ

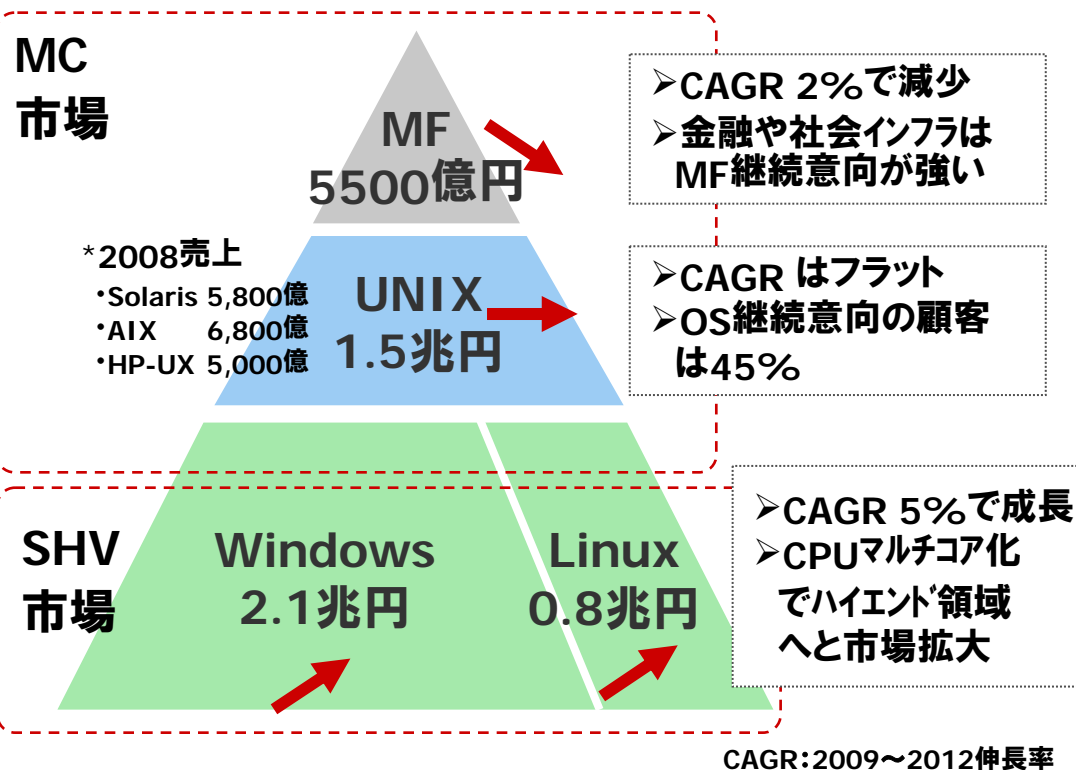
- 既存アプリ資産を継承すべく各OSのサポート継続
  - 共通開発による開発効率化で現行ラインアップ維持

システム規模	メインフレーム		UNIXサーバ (Solaris)	IAサーバ (Windows/Linux)	オフコン
大規模 基幹システム	BS2000 	GS21/ PRIMEFORCE 	SPARC Enterprise 	PRIMEQUEST 	PRIMERGY 6000 
中規模 基幹システム				PRIMERGY 	
部門サーバ	【FTS】	【富士通】	【富士通/FTS】	【富士通/FTS】	【富士通】

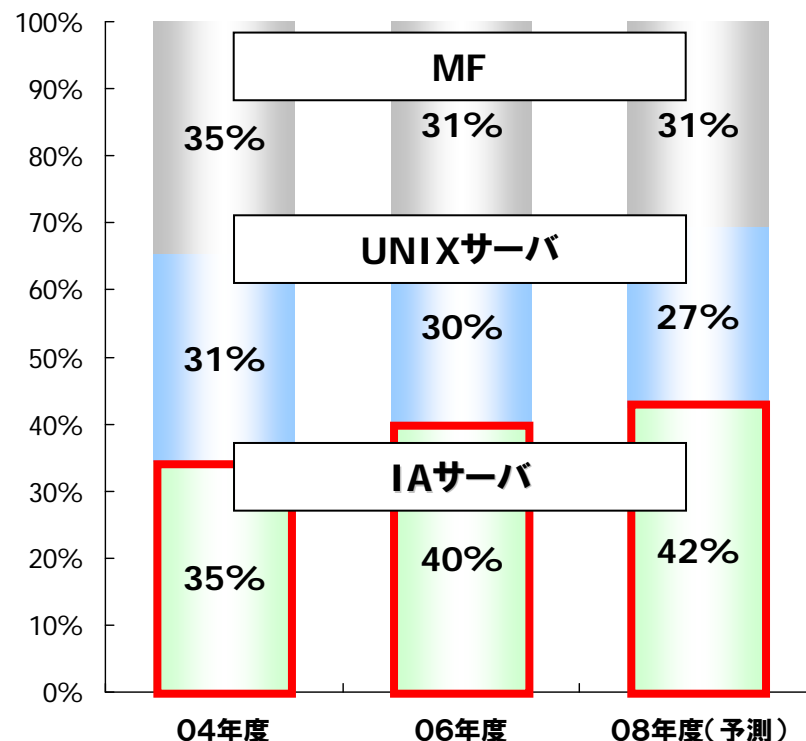
# サーバ市場はIAサーバが主力へ

- メインフレーム／UNIXはIAサーバ(Windows/Linux)へシフト
- 富士通グループでも、サーバビジネスの主体はIAサーバへ移行中

## ■ OS別マーケット予測 (2012年Worldwide)



## ■ 富士通／FTSのサーバビジネス動向



[出典:IDC Worldwide Quarterly Server Forecast 2008/4Q]

# 富士通シーメンス・コンピュータズ統合でIAサーバ事業を強化

## ■ グローバルに競争力のある製品を提供

- グローバルに統一された製品を提供(4月出荷モデルより)
- 監視ソフト(Server View)を全世界で統一的に提供
- 保守部品のグローバル最適配置

## ■ 開発体制の一本化によるスピードアップ

- PRIMERGYの開発業務を富士通テクノロジー・ソリューションズ(ドイツ)に集約  
プロダクト上級幹部/ブレード開発部隊のドイツへの派遣
- 富士通側製品評価の重複部分を排除
- 量産共通化に向けた製造・試験内容の共通化

## ■ 最適な製造体制の確立

- ドイツ(アウグスブルグ)と日本(福島)でグローバルにカバーする体制
- 将来的には、アウグスブルグ工場が世界の他地域での工場の製造立ち上げをサポート



## ■ グローバルに統一された調達体制の確立

- グローバル調達センターを設立し、調達窓口を一本化
- 部材毎に共通の調達戦略を策定し、価格交渉力を最大化
- 台湾、中国の国際調達部隊も09年度上期中に統合

## ■ サプライチェーンの最適化によるローコスト化の推進

- グローバル展開における、双方の強みを活かした品質・コスト・納期の最適化
- 共通の評価指標を設定し、互いにベンチマーク評価開始
  - － リードタイム
  - － 納期回答遵守率
  - － SCMコスト
  - － 在庫回転率

## ■ 新製品の早期市場投入(Time to Market)

### ■ インテル新CPU(Nehalem)搭載2Way機のインテルとの同日発表

- 3/30 富士通シーメンスがドイツで発表(インテルの発表日:3月30日)
- 4/6 予定 富士通が日本で発表(インテルの日本での発表イベント:4月6日)

## ■ 大規模ブレードサーバ(5月発表予定)

### ■ 業界トップクラスのブレード実装枚数

- 独自の構造冷却技術

### ■ 環境に配慮した、業界トップクラスの低電力設計

- 高効率新部品の開発(電源・CPU用電源)

### ■ システム全体での電力コントロール

- サーバ/ストレージ/ミドルウェアの連携で実現

PRIMERGY BX600(現行機)



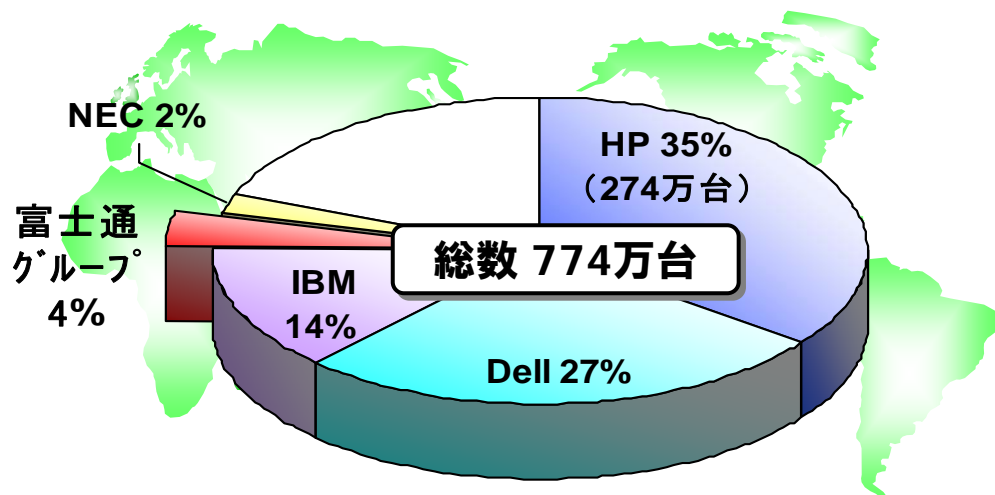
# IAサーバのビジネスプラン(Worldwide)

## ■ 富士通グループシェア (2008年)

■ 世界x86サーバ市場 : 4%(27万台)、4位

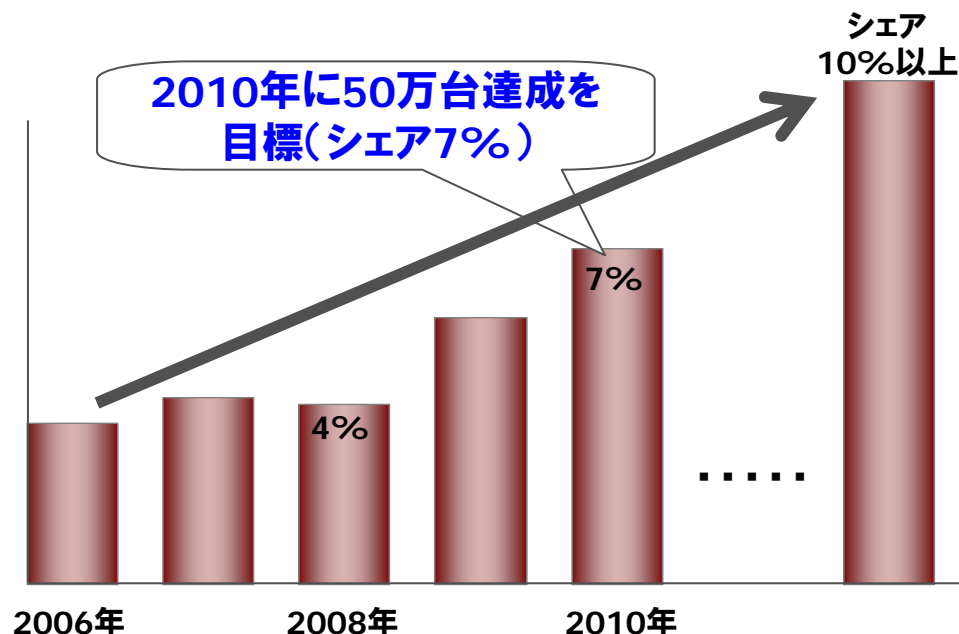
➡ シェア 10%超へ

### 【 世界x86サーバ市場シェア(2008年) 】



出典: IDC Worldwide Quarterly Server Tracker, 2008Q4

### 【 富士通グループの目標 】



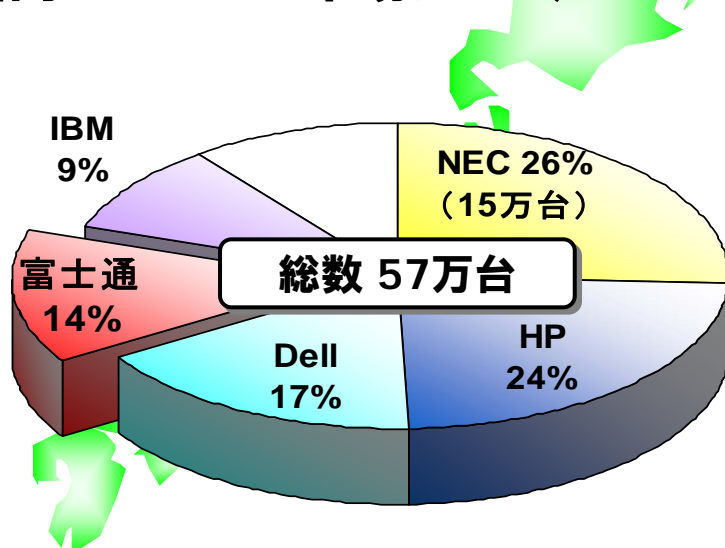
# IAサーバのビジネスプラン(国内)

## ■ 富士通グループシェア (2008年)

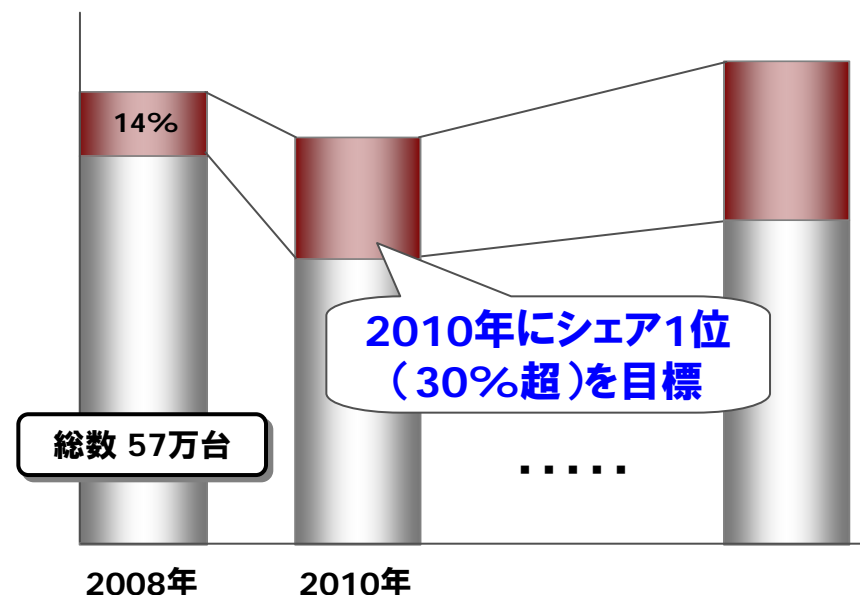
- サーバ全体の金額ではシェア1位
- 国内x86サーバ市場：14%(8万台)、4位

➡シェア 1位(30%超)へ

【国内x86サーバ市場シェア(2008年)】



【富士通グループの目標】



出典: IDC Japan's Japan Server Quarterly Model Analysis, CY08Q4

# 国内シェア1位をめざす組織変革

- **IAサーバ事業本部の設立(2008年12月)**
  - PRIMEQUESTとPRIMERGYの事業部を一つの本部に集約
  
- **プラットフォームソリューションビジネスグループの設立(2009年2月)**
  - 国内販売推進部隊、パートナー支援/営業部隊、技術支援部隊の3本部を一つのビジネスグループに集約(700名体制)
  - ワンストップで営業/SE/パートナーを強力にサポート
  
- **国内営業体制の強化(2009年4月予定)**
  - 全国の富士通直販営業部隊の中にプラットフォーム専門営業を設置
  - 新規パートナー/二次販売代理店の開拓専門部隊を設置



## ■ 商品競争力の強化

- 商品ラインアップの拡充と競合力のある価格設定
- ITインフラデリバリサービス(インフラ工業化)の拡大による導入/構築の簡便化・迅速化
- 長期保守モデルの投入

## ■ パートナー販売の強化

- 技術支援体制/構成見積支援体制の拡充
- パートナーの提案力強化に向けた提案資材の提供/共同開発
- パートナープログラムの強化

## ■ ISVとの戦略提携の強化

- マイクロソフトとソリューションビジネス分野で協業(3月26日発表)

- 欧州のPCビジネスは富士通のグローバルビジネスの一環として、引き続き富士通テクノロジー・ソリューションズを通じて推進
  - 製品ブランドを富士通に統一し、より付加価値の高い製品中心のポートフォリオへシフト
- グローバルなIT総合ベンダーとして製品やサポートを統一し、お客様への提供価値を大きく高める
  - 製品開発力の強化と効率化、競争力の高い製品の提供
  - グローバルサプライチェーンマネジメント体制の確立による効率化とコストダウン
  - グローバルなサポート&サービスの提供

欧州：中近東、アフリカ含む

## ■ 富士通のポートフォリオにおける

富士通シーメンス・コンピュータズ統合

野副 州旦

## ■ 富士通シーメンス・コンピュータズ統合で

変革する富士通のIAサーバビジネス

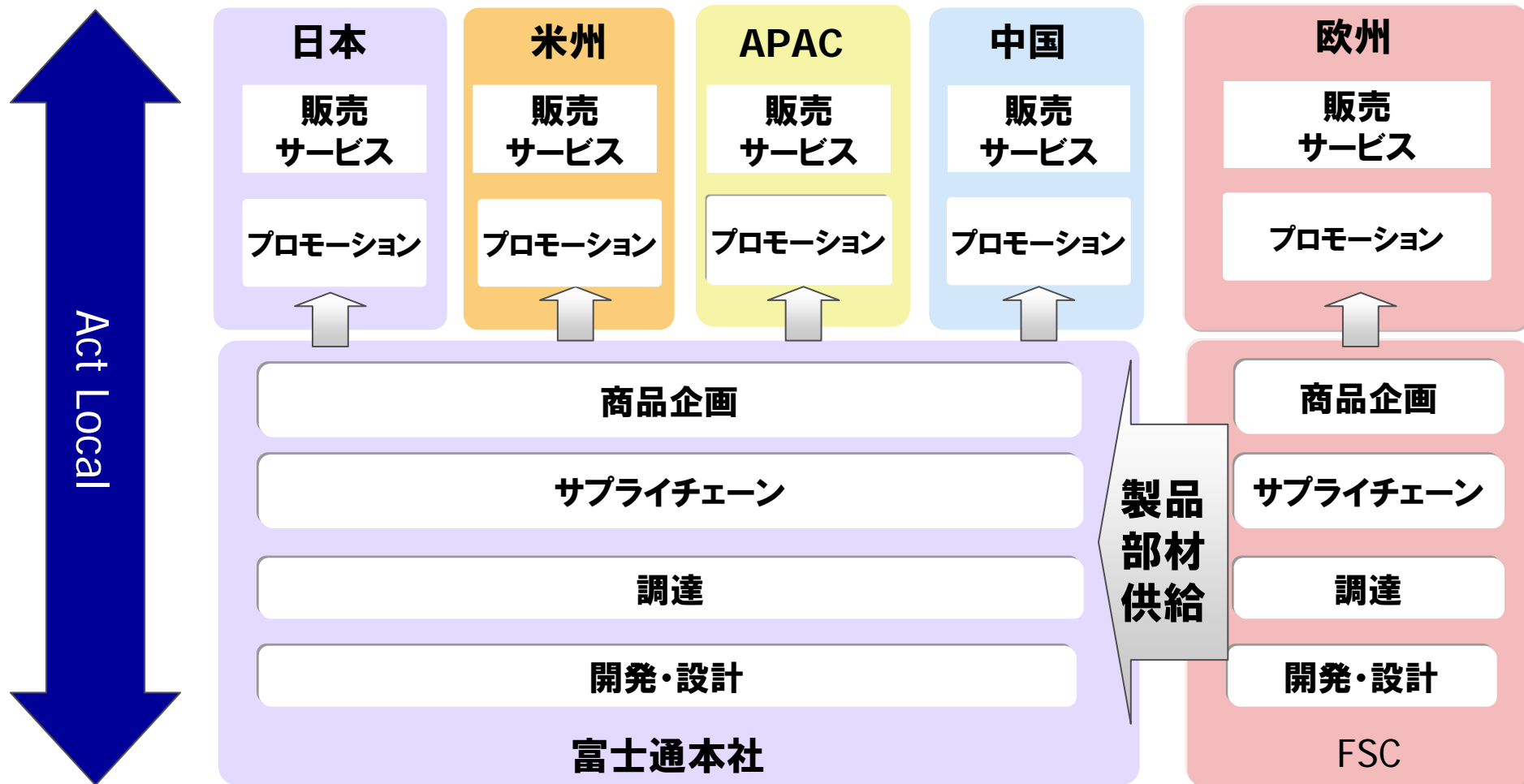
富田 達夫

## ■ 変革するグローバルビジネス

リチャード・クリストウ

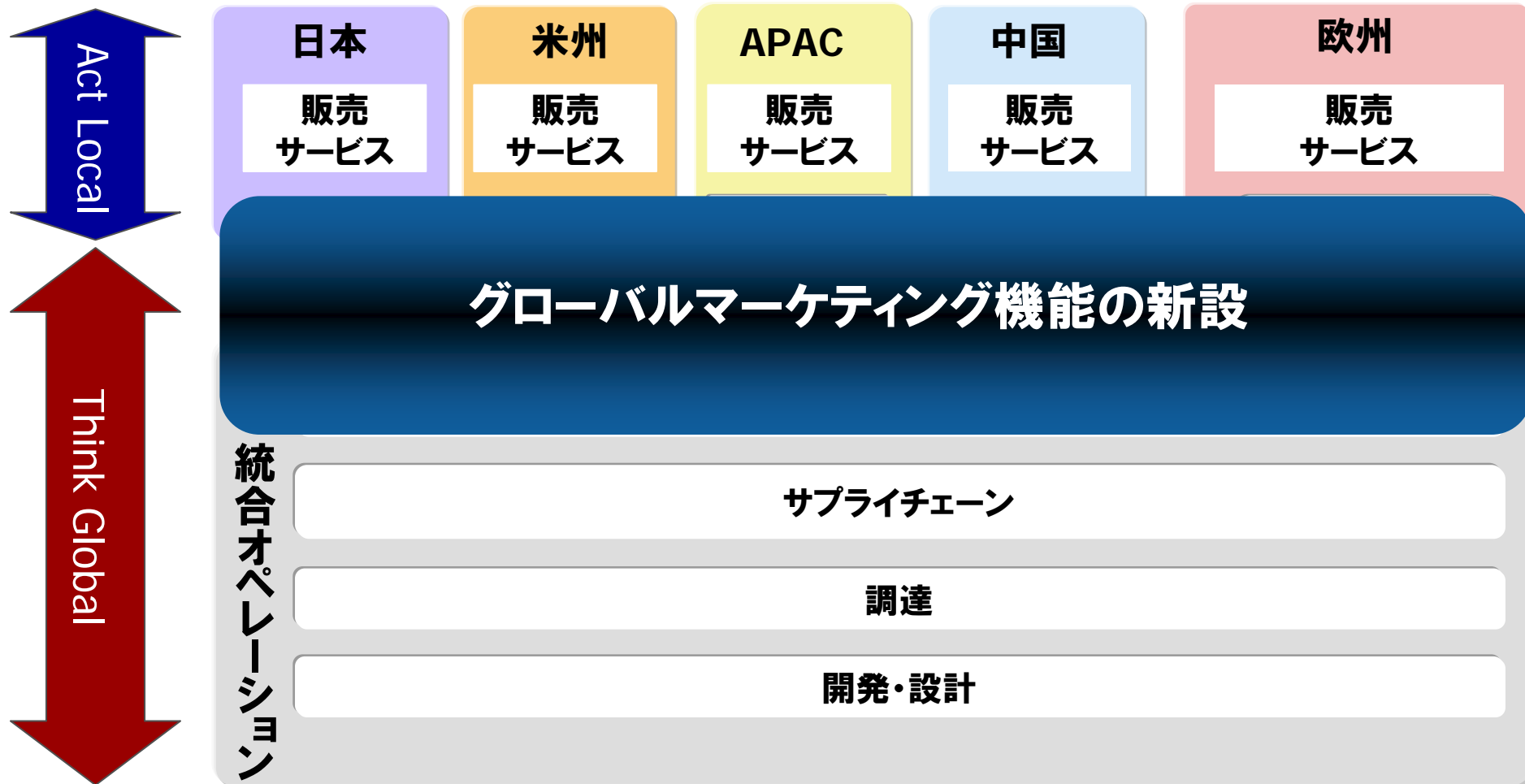
# グローバルなサーバオペレーションの変革

## サーバの製販チェーンの複線状況(統合前)

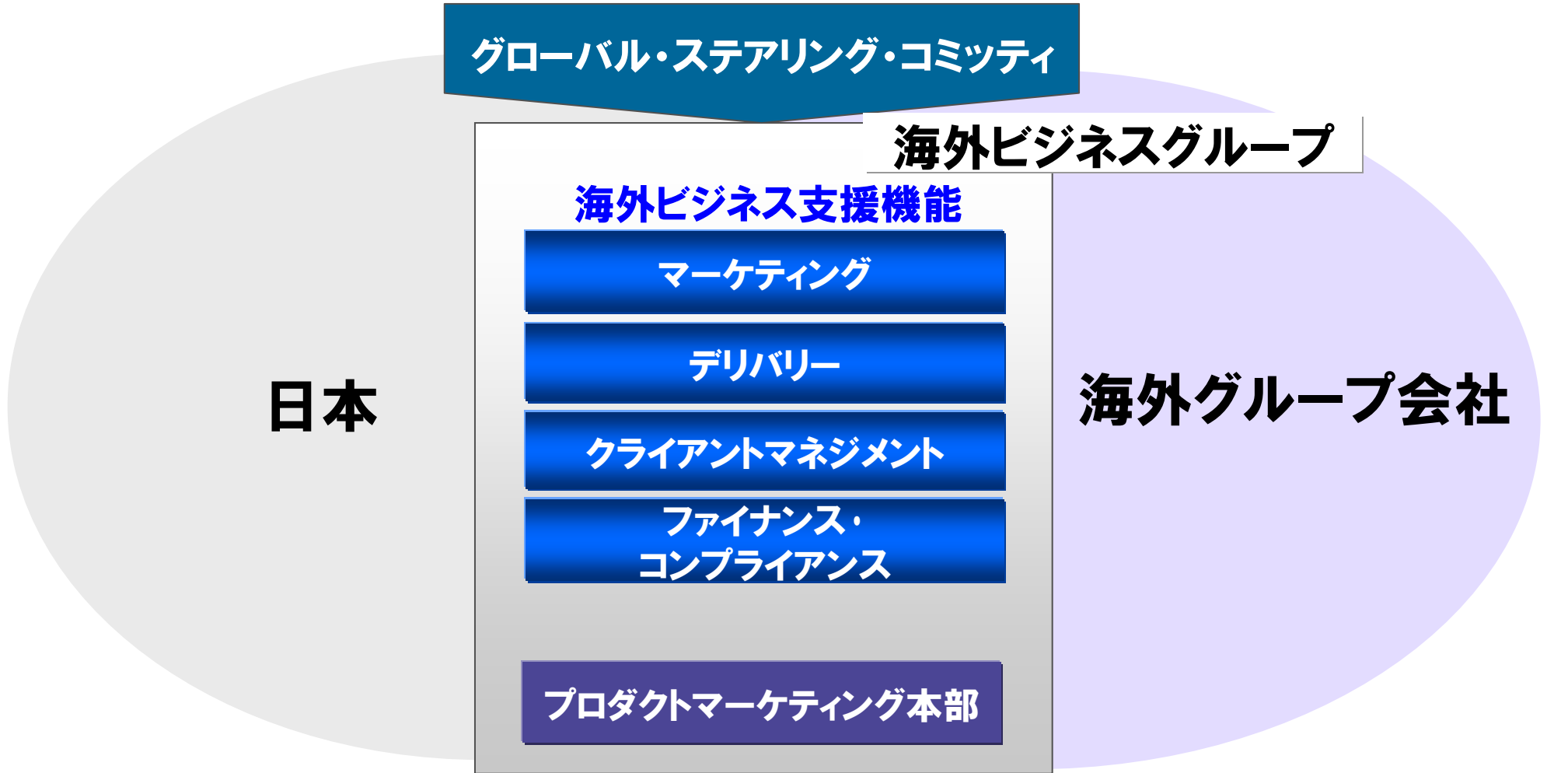


# グローバルなサーバオペレーションの変革

開発・設計、調達、サプライチェーン、商品企画をグローバルに統合



## グローバルビジネス本部を4つの機能に再編



# グローバルなデリバリー体制の強化

- 北米： 製品、コンサルティング、ソリューションをトータルに提供するFujitsu America Inc.を設立(2009年4月1日)
- 欧州： 富士通サービスと富士通テクノロジー・ソリューションズの連携により、トータルなソリューションを提供(既に開始済)
- 中国： 販売体制の再編
- APAC： KAZ社の買収\*により豪州におけるITサービスとテクノロジーの両分野を強化(2009年)

\* オーストラリア当局の承認後

## プロダクトビジネスからシステムビジネスへ

### 富士通テクノロジー・ソリューションズ

マネージド・インフラストラクチャー / IaaS

**Dynamic Infrastructures**

インフラ・ソリューション / インテグレーションサービス

オペレーション  
アライアンス

IAサーバ

エンタープライズ  
サーバ &  
ソフトウェア

ストレージ

PC

### 富士通シーメンス・コンピュータズ

エンタープライズ  
サーバ

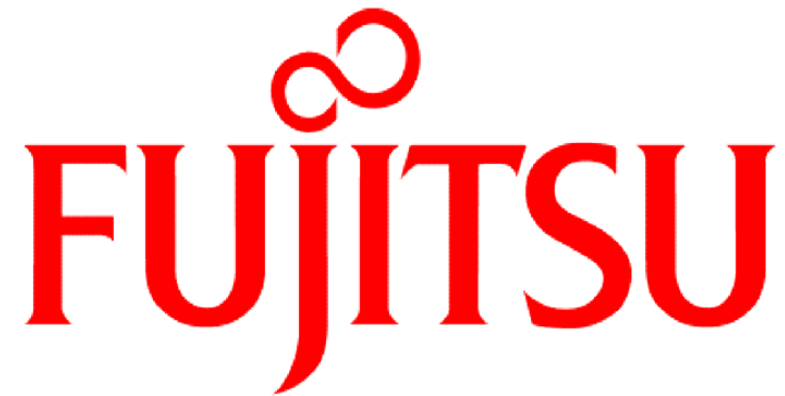
ソフトウェア

ストレージ

PC



**富士通はテクノロジーソリューションを中核に  
“ サービスとプロダクトの両輪 ”で  
ビジネスをグローバルに展開する**



**FUJITSU**

**THE POSSIBILITIES ARE INFINITE**

# 免責事項

このプレゼンテーション資料、及びミーティングで配布されたその他の資料や情報、及び質疑応答で話した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により、実際の結果・業績または事象と異なることがあります。実際の結果・業績または事象に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます（但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません）

- ・富士通の提供するサービスまたは製品にとって主要な地域（アメリカ合衆国、EU諸国、日本、その他アジア諸国など）のマクロ経済環境や市況動向。中でも当社顧客のIT支出に影響を及ぼすような経済環境要因。
- ・急速な技術変革や顧客需要の変動。及び富士通が参入しているIT市場、通信市場、電子デバイス市場での激しい価格競争。
- ・他社との戦略的提携や、合理的条件下での他社との取引を通じて、富士通が特定のビジネスから撤退し、関連資産を処分する可能性。およびこのような撤退・処分から発生する損失の影響。
- ・特定の知的財産権の利用に関する不確実性。特定の知的財産権の防御に関する不確実性。
- ・富士通の戦略的提携企業の業績に関する不確実性。
- ・富士通の保有する国内外企業の株式の価格下落が、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表に与える影響。およびこの保有株式の株価下落により発生した富士通の年金資産の評価減とこれを補うために追加拠出される費用の発生による影響
- ・顧客企業の業績不振、資金ショート、支払不能、倒産などに起因する売掛債権の回収遅延や回収不能によって、当社が被る損害の影響
- ・富士通が売上高をあげている主な国の通貨、および富士通が資産や負債を計上している主な国の通貨と日本円との為替レートの変動により発生する為替差損益の影響（特に、日本円と、イギリスポンド、アメリカドルとの間の為替差損益の影響）